

## 天目山遭難(2015年1月)

73歳男性。夫婦2人で登山。下りで支尾根に迷い込み急斜面に設置してあるトラロープを頼りに下る。夫が滑落し動けなくなったため、妻が同じロープを使って林道まで辿り着き警察に救助を求めた。



## 解説

道迷いの場所(起点)は、尾根の分岐を直進して誤ったもの。道迷いのパターンとしては非常に多い。直進した支尾根には岩崖の地図記号があり危険個所だと想像がつく。

道迷いから滑落に至り、動けなくなるのも非常に多いパターン。今回は妻と二人で登山されていたので事なきを得たが、単独登山では救助の連絡も難しくなる。

①道は下り、②尾根を直進、③崖が出てきたのでロープ頼りに下降するも滑落、④身動き取れず、⑤遭難発生時刻は夕方間際の16時頃。(体力的にも疲れが出てくる時間帯。「あれっ?おかしい?」と思っても、あと少しで林道という気持ちやロープが設置してあるので大丈夫という気持ちがあったのかもしれない。)

典型的な道迷い遭難の事例でとなったが、いつ起きてもおかしくないのを気付けて行動したい。